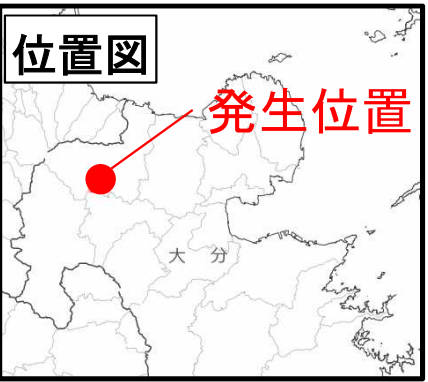




○災害概況

発生日時：4月11日午前3時50分ごろ

場所：大分県中津市耶馬溪町大字金吉

被害状況：土砂崩れ（幅約200m・長さ約240m）により民家4軒が被災。

市道床波山浦線全面通行止め

死者6名



○対応状況

- ・大分県からの派遣要請に基づき、国土技術政策総合研究所・土木研究所から専門家を派遣(4月11日)。(国総研: 桜井深層崩壊対策研究官、鈴木研究員、他1名、土研: 藤平上席研究員)
- 「はるかぜ号」にてヘリ調査を実施し、調査結果について中津市長に報告。二次災害の危険性等について助言。4月12日9時より現地地上調査を実施。
- ・九州地整は現地にテックドクターを3名(九州大学: 安福教授、三谷教授、水野准教授)派遣(4月11日)。
- ・九州地整はドローンによる調査、衛星通信車等2台、無人バックホウ等3台及び照明車4台を派遣。
- ・九州地整及び大分県からの要請により、大分県建設業協会よりバックホウを派遣。
- ・大分県が土砂災害危険箇所等の緊急点検を実施(4月12～13日)。
- ・大分県が崩壊斜面の中腹に伸縮計3基を設置し、観測を開始(4月14日～)。

○専門家コメント(4月11日)

- ・本日の概査では崩壊メカニズムを特定することはできないが、風化して強度が低下した基岩が崩壊発生に大きく影響したというような素因によるものと判断。
- ・降雨がない中での崩壊であるため、崩壊の予測は難しかった。
- ・このような崩壊に対しては、土砂災害警戒区域等をもとに自宅場所の危険性を把握し、転石、落石、地鳴り、湧水の増加などの前兆現象に注意を払う必要。